

本校校舎新築に向けてプラン作成のための調査・研究
(第2年次)

筑波大学附属駒場中・高等学校

学校建築研究プロジェクト委員

土井 宏之・石川 祐爾・池田千代子
市川 道和・小宮 一浩・真梶 克彦
末岡 敏明・中西健一郎・深瀬 幹雄
丸浜 昭

本校校舎新築に向けてプラン作成のための調査・研究（第2年次）

筑波大学附属駒場中・高等学校

学校建築研究プロジェクト委員

土井宏之・石川祐爾・池田千代子
市川道和・小宮一浩・真梶克彦・
末岡敏明・中西健一郎・深瀬幹雄
丸浜 昭

学習環境は教育を成立させる重要な要素であり、その意味で、老朽化した本校校舎の新改築は急務といえる。本研究プロジェクトは、本校の使命、教育目標、育てようとする生徒像の議論も踏まえながら、より充実した学習環境を整えるべく、遠くない将来の校舎新築に向け、そのプラン作成に取りかかろうとするものである。いずれ、校内における基礎調査・研究がある段階に来た時点で、筑波大学芸術系の、環境・建築デザイン研究室と連携することも考えている。初年度の昨年はその足がかりの年として、先入観のない目で他校の学校建築の例を見学、調査する、情報収集の年と位置づけ、活動を行った。本年度は、本校校内における基礎調査の第1段階として、簡単なアンケートを本校教員に対し行った。本稿は、その結果の集約と考察である。

1. はじめに

本校が、国立大学の独立行政法人化に伴い、筑波大学の附属学校として独立行政法人に移行することとなり、更には国立大学及び附属学校の民間委託も提言される今日、本校の位置づけが将来的にどのような形になるとしても、本校の教員はその教育内容には自信を持って臨むであろう。しかしながら、本校も創立50周年を経、生徒の学習環境の本体である校舎は、1964年の竣工以来既に40年近くを経過し、老朽化は目を覆うばかりである。それに加え、学習並びに生徒の活動の多様化にも耐えられなくなってきている。学校のソフト（教育内容）には自信を持ちつつも、それを支えるハード（建物）はみすぼらしい限りである。教育を成立させる重要な要素である校舎の新改築は急務といえよう。その予算的裏付けは現在全く無いが、本研究プロジェクトは、本校の使命、教育目標、育てようとする生徒像の議論も踏まえながら、より充実した学習環境を整えるべく、遠くない将来の校舎新築に向け、そのプラン作成にとりかかろうとするものである。初年度の昨年はその足がかりの年として、先入観のない目で他校の学校建築の例を見学、調査する、情報収集の年と位置づけ、合計3回の学校訪問を行い、その報告をした。本年度は、本校校内における基礎調査の第1段階として、簡単なアンケートを本校教員に

対し行った。まず、その結果の集約を載せる。

2. アンケート調査票・集計結果

学校建築プロジェクト校内アンケート調査

プロジェクト代表 土井 宏之

昨年、本プロジェクトを立ち上げ、これまでにのべ4校の学校訪問を行ってきました。校舎新築の予算的な見通しの全く立たない現状ですが、遠くない将来の実現に向けて、その基礎資料づくりの一つとして、校内の先生方にアンケート調査をお願いしたいと思います。具体的に書いていただけるとありがたいのですが、問いが漠然としていて答えにくい設問もあるかと思われますので、答えられる範囲で、AかBかだけでも結構です。壮大な夢を語っていただければそれも又大いに結構です。よろしくお願ひいたします。

今回の調査では、本来踏み込むべき、将来構想とは切り離して考え、現状をベースに設問を設定しました。

<調査項目・回答数・自由記述>

*各設問はA・BないしA・B・Cから選択する形式を取っており、右端の数字がその集計である。（回答総数16）選択肢の後に自由記述を載せた。

1. 基本設計

①A高層集中型（駒場学園など）	5	B否（管理、コストなどの観点あり）	4
・敷地は比較的広いがAがベースであろう		・管理、コストが大変になる	
・土地を有効に使うべき		・敷地に収まるなら外がいい	
B低層分散型（東野高校など）	9	④図書館は	
・エレベーターなしの3階が限界		Aシステムとしての教材センター化（準備室の資料、	1
・生徒が集中しすぎるのは危険な感じがする		教材のオープン化、ネット化）重視	
・一部高層を含んでもよい（2）		B生徒の個人利用、自学自習機能中心	9
②A機能性重視（駒場学園など）	1 3	・教材は各教科の身近にある方が使いやすい	
・デザインも重要だが、機能は無視できない		・両方必要	1
・巧みにBも取り入れて		⑤生涯教育、地域への開放のための施設の設置を	
・ゆとりをもたせたい、小集団の生徒をちよっと集めることができるスペースがほしい		A考えるべき	1 3
Bデザイン重視（東野高校など）	2	・人的、制度的条件を整えればよい	
		・将来的には、学校の財源として、経済的な面も考えて	
2. 運営方式		・できる範囲で	
①A特別教室型（本校中学）	3	・利用者の動線計画と、施設管理システムの問題に	
B教科教室型（本校高校）	4	すぎない	
・実習、実験用の特別教室と講義用普通教室で構成する・講義用普通教室の一部を教科教室に振り分け、他をHR教室兼用の多目的教室にする・普通教室は月毎、学期毎に動的にマッピングしながら使用する		B否	2
C教科教室＋ホームベース（はるみ総合高校など・必要面積の増加の問題）	6	・管理しきれないだろう	
・非実技実験教科にも、HRが使用しない専用の教科教室があると、教科の独自性を生かしたレイアウトができる		4. 生活条件	
・中学と高校では質が違うので、本校の現行方式がよい（2）		① A上下履き区別	6
3. 施設		・気持ちの切り替えのために必要	
① A講堂の体育館との兼用（現状）	3	B上履き廃止	1 0
B講堂を単独で設置（現オープンスペース機能の移行）	1 3	・グラウンド・体育館用以外は無くてもよい	
② A完全分離の小人教教室の設置	6	②清掃は	
・面談室、ゼミ室、委員会室等小部屋を多く作る		A業者に全面委託	0
B本来のオープンスペース（可動壁により小教室）の設置	7	B一部業者委託	1 3
・オープンスペースの方が柔軟性がある		・生徒に現行程度の清掃はさせるべき	
・両方必要	1	C全部生徒	3
③プールの屋内化（屋上）は		・自分が汚したものは自分で掃除すべき	
A是	1 0	③食事は	
・移動時間が短縮できる		A完全給食（仕出し含む）	0
・グラウンドの砂が入るのを防げる		B弁当中心（現状）	8
・衛生面を考えれば屋内		・校内販売を充実させたい	
		Cカフェテリア方式（現コモンスペース機能も、採算性の問題あり）	7
		5. その他	
		冷暖房、換気	
		ゴミ処理	
		更衣室、更衣ロッカー、荷物ロッカー	
		クラブ室	
		保健室・カウンセリング室	
		受付、出入り管理	

放送（情報伝達）システム

等についてご意見あれば

- ・冷暖房を完備すべき（3）
- ・冷暖房については制御をどこで行うかが重要、先例をよく研究すべき
- ・更衣ロッカーを整備すべき（2）
- ・放送を頻繁に使わずにすむシステムにしたい
- ・廊下、教室にLANでつながったモニターを設置し、放送しないで済むようにする
- ・情報伝達は、ビデオ系に移行し、個人の携帯端末にリンクさせる
- ・遠い将来の共学化の可能性も視野に考えた方がよい、トイレや更衣室など、外部開放にも女子用が必要
- ・法的にどの程度の延べ床面積が可能なのか調べるべき
- ・女子更衣室は必要

以上

3. アンケート結果の考察

本調査は本校教員44名に対し行ったが、回答数は16で、3分の1程度の回収率となってしまった。この回答数の少なさは、校舎の新築に予算的な見通しが全く立たない現状を反映しているものと考えられる。しかし寄せられた回答の中にはかなり具体的な提案も含まれている。校舎新築を夢物語に終わらせないためにも、ある程度の基本構想を準備しておく必要がある。そのためにも、少ない回答の範囲であるが、新校舎像を考えてみたい。

1. 基本設計

モデル化するために、A高層集中型かB低層分散型の二者択一としたが、実際には高層と低層を組み合わせた建物群となろう。本校は都心に立地する割には敷地面積が広い方である。したがって、無理に高層化する必要はない。高層建築では、生徒が密集するため、地震や火災などの非常時に危険度が高まるという指摘があった。また、高層建築の場合、エレベーターを設置する必要があり、その安全性や生徒指導の問題も出現する。生徒が通常活動する棟は低層とし、事務や情報管理等の学校運営のための施設と、生徒の利用頻度の少ない部屋を1つの高層の棟にまとめるのが理想的であろうか。高層棟と低層棟を、生徒、教職員の動線を考え、スムーズな情報伝達、ネット化も含めて配置、デザインする必要がある。

2. 運営方式

三者択一であるが、実際の運営は二つの組み合わせ、あるいはいずれかをベースに他の要素を取り入れた方式となろう。本校は中高一貫校で、中学と高校とは完全に一体の運営とあってよい。しかし、教育課程の違いにより、教室等の使い方は中学と高校、あるいは学年によって異なってくる。Cの教科教室+ホームベースでは、他校の例を見ると、ホームベースはあくまでもロッカー室であり、空き時間の居場所である。その場所で、学級単位で話し合いを持つ、あるいは何らかの活動をするには手狭であり、決して機能的ではない。すべての教科の教科教室を独立させた場合、学級活動を行う場が確保されなくなってしまう可能性がある。総合的に考えた場合、本校の現行方式、中学はホームルーム教室と特別教室、高校は教科教室とホームルーム教室の兼用、が現実的であろう。しかし、非実技実験教科の独自性が出せるような配置、運用システムは考え直す必要があると考える。仮にホームベースのようなスペースを設けるとしても、ロッカールームとしての機能をベースにコンパクトに作ることで、床面積の増加は防げる。

3. 施設

体育館と講堂を別に設置することに支持が多いのは当然であろう。現状では、体育館で式典等の一定規模以上の集会を行っているが、使い勝手が決してよくないのは事実である。しかしこれは、現在の体育館が老朽化していると同時に、講堂としての機能がほとんど考えられていない設計によるものと考えられる。仮に体育館と講堂を別に設置した場合には、それ相当の敷地ないしは床面積が必要となり、現行のオープンスペースはその位置づけも曖昧になることから、なくすことになろう。少人数対象の授業や教育相談、カウンセリングに対応する密閉性のある小教室も当然必要であろうが、オープンスペースには、中規模の集会の場としての機能の外に、フレキシブルに小スペースに分割して使用することが可能で、様々な状況に対応できる利点がある。会話が外に漏れてもかまわない会合等に臨機応変に利用できる。これらを総合的に考えた場合、講堂の機能を有した体育館、中規模集会、小会合に対応できるオープンスペース、密閉された小教室を複数設置、というプランがもっとも現実的ではないだろうか。

プールについては管理やランニングコストの問題が解決されれば、屋内化がよいというのはもっともであるが、屋上に開閉式の屋根が理想的である、という担

当者の話もあり、実現は困難かとも思える。

図書館については、現状のような生徒の利用中心に、という声が多い。教科の教材は準備室においた方が使い勝手がよいということであろう。しかし、各教科で管理する教材、文献等が、校内のネットワークに登録され、他教科の教員、あるいは生徒がそれを探せるような体制にできると理想的である。

生涯教育等のために校外の一般の人々への開放ということについては、一般論としてはおおむね賛同が得られよう。安全管理や、本来の学校教育とのかねあい、実際の運営方法等、解決すべき問題は種々あり、すぐに可能なことではないが、地域社会への貢献という意味でも今後積極的に検討すべきである。専用の建物を当初から設置することは困難であるとしても、その可能性を考慮し、全体のプランを考える必要があるだろう。

4. 生活条件

制度としての上履きの使用、不使用と、校内清掃のあり方は密接に関係しており、生徒に対する生活指導の考え方により、大きく異なってくると考える。最近、特に高等学校において上履きを廃止し、更に業者による清掃を大幅に取り入れる学校も増えてきているようである。アンケートの結果からも、その方向へ、という意見がある程度読みとれる。清掃の業者委託により、校内は現状よりきれいになることは目に見えるし、生徒も活動しやすくなる面もあろう。教員の負担も大幅に減るものと考えられる。しかし一方で、土を建物内に持ち込まないようにする工夫が必要であろうし、本来自分たちが汚したものは自分たちで掃除するという、基本的な生活習慣の欠如を一層促すことにも成りかねない。上履きを廃止したとしても、清掃は生徒自身が行うことを基本とし、一部を業者に委託するのが現実的であろう。

5. その他

冷暖房システムは、使い勝手、運用コストの観点だけでなく、生徒、教職員の健康を最優先に具体的なプランが考えられるべきであろう。環境に配慮することも当然必要になってくると考える。

自由記述に、情報伝達のシステムについて具体的な提案がいくつかあった。ほとんどの学校で行われている現在の音声による校内放送は、近隣への迷惑等を考慮すれば、できる限り控えたいと考える。そこで、校内LANを利用した視覚的情報による伝達方法や、生徒に携帯端末を持たせるといった方法は十分考慮に値する。コストや具体的な運用方法を十分に検討してからということになるだろう。

女子更衣室やトイレ等、現状で不十分なものについては、共学化の議論は別にしても、整備されてしかるべきであろう。

以上、アンケート調査への回答結果について各設問毎に考察を加えながらとりまとめた。はじめにも述べたように回答数が全体の3分の1程度ということもあり、これが全教員の意向であるとは言い難いが、ある程度のイメージは描けたのではないかと考える。予算措置の見通しは現在全く立たないが、ゴーサインがでてからあたふたとする前に基本プランを練っておく必要はあろう。この調査がその端緒となれば幸いと考えている。